

多重伝送システム		
取扱説明書	多重伝送、M-Bus 用 リンクアダプタ	形式
		DAL4

## ご使用いただく前に

このたびは、弊社の製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本器をご使用いただく前に、下記事項をご確認下さい。

### ■梱包内容を確認して下さい

- ・リンクアダプタ.....1台

### ■形式を確認して下さい

お手元の製品がご注文された形式かどうか、スペック表示で形式と仕様を確認して下さい。

### ■取扱説明書の記載内容について

本取扱説明書は本器の取扱い方法、外部結線および簡単な保守方法について記載したものです。

## ご注意事項

### ●供給電源

- ・許容電圧範囲、電源周波数、消費電力  
スペック表示で定格電圧をご確認下さい。  
交流電源：定格電圧 100 ~ 240 V AC の場合  
85 ~ 264 V AC、47 ~ 66 Hz、約 11 VA  
直流電源：定格電圧 24 V DC の場合  
24 V DC ± 10 %、約 250 mA

### ●取扱いについて

- ・本体の取外または取付を行う場合は、危険防止のため必ず、電源を遮断して下さい。

### ●設置について

- ・屋内でご使用下さい。
- ・塵埃、金属粉などの多いところでは、防塵設計のきょう体に収納し、放熱対策を施して下さい。
- ・振動、衝撃は故障の原因となることがあるため極力避けて下さい。
- ・周囲温度が -5 ~ +55℃ を超えるような場所、周囲湿度が 30 ~ 90 % RH を超えるような場所や結露するような場所でのご使用は、寿命・動作に影響しますので避けて下さい。

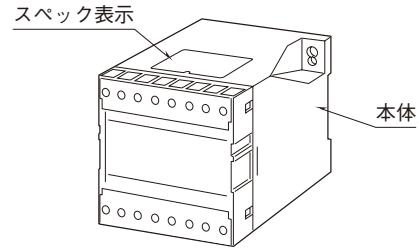
### ●配線について

- ・配線は、ノイズ発生源（リレー駆動線、高周波ラインなど）の近くに設置しないで下さい。
- ・ノイズが重畳している配線と共に結束したり、同一ダクト内に収納することは避けて下さい。
- ・感電防止のため、必ず端子カバーを閉じて下さい。

### ●その他

- ・本器は電源投入と同時に動作しますが、すべての性能を満足するには 10 分の通電が必要です。

## 各部の名称

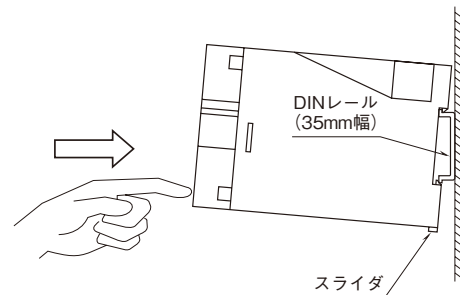


## 取付方法

### ■DIN レール取付の場合

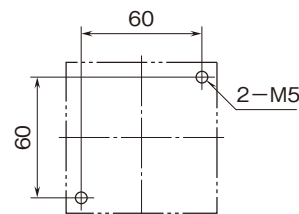
本体はスライダのある方を下にして下さい。本体裏面のの上側フックを DIN レールに掛け下側を押しして下さい。

取外す場合はマイナスドライバーなどでスライダを下に押下げその状態で下側から引いて下さい。

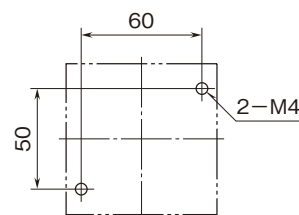


### ■壁取付の場合（単位：mm）

#### ●M5ねじ取付



#### ●M4ねじ取付

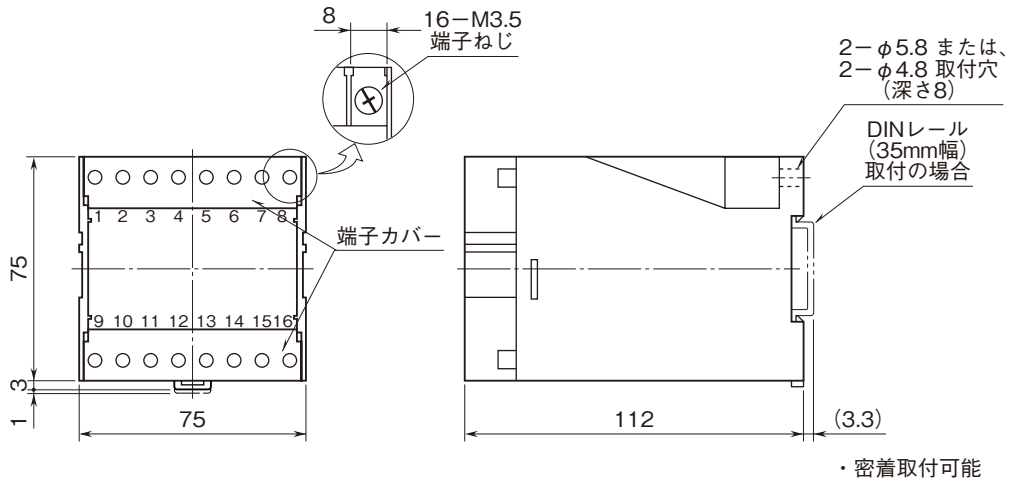


# 接 続

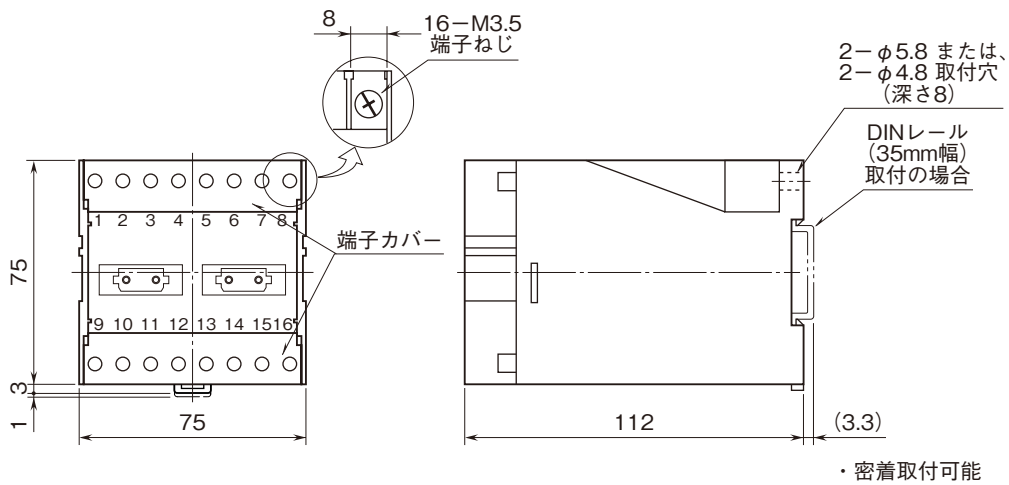
各端子の接続は端子接続図を参考にして行って下さい。

## 外形寸法図 (単位 : mm)

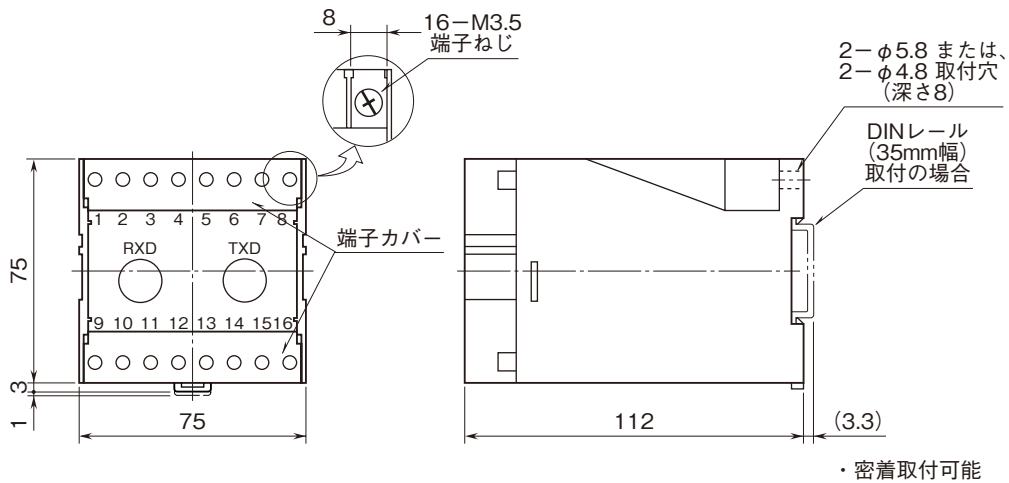
### ■DAL4-1



### ■DAL4-2

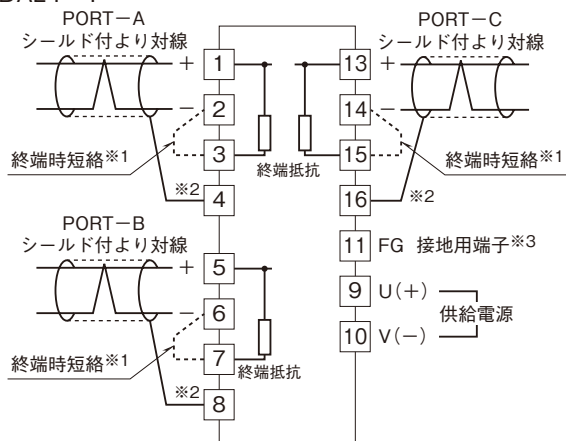


### ■DAL4-5、7

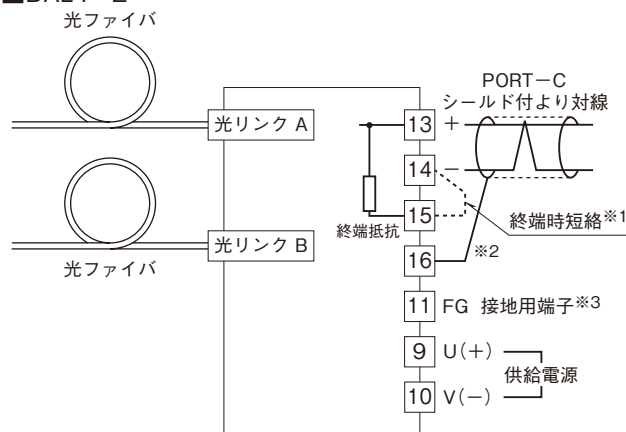


## 端子接続図

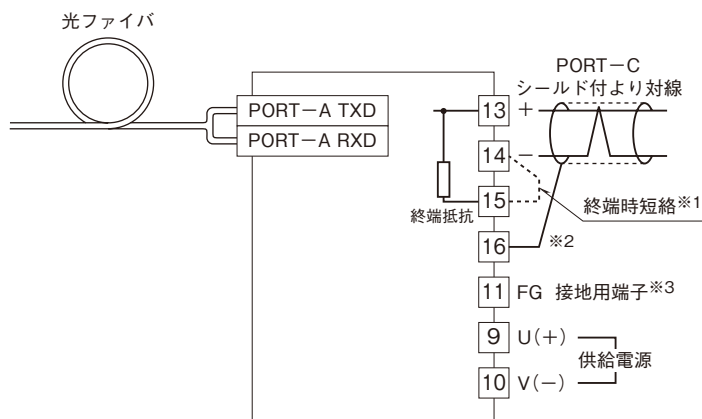
### ■DAL4-1



### ■DAL4-2



### ■DAL4-5、7



- ※1、より対線の伝送ラインが終端の場合は短絡して下さい。  
伝送ラインの途中の場合は短絡しないで下さい。
- ※2、多重伝送ユニット (22LA1、DLA1) と接続する場合、シールド線はSG端子 (4、8、16) に接続せず、盤のFGに接続して下さい。
- ※3、FG端子を接地することにより、電源、伝送ラインの耐ノイズ性が向上します。ノイズの多い環境では接地することをおすすめします。

## 配線

### ■端子ねじ

締付トルク：0.8 N・m

## 点検

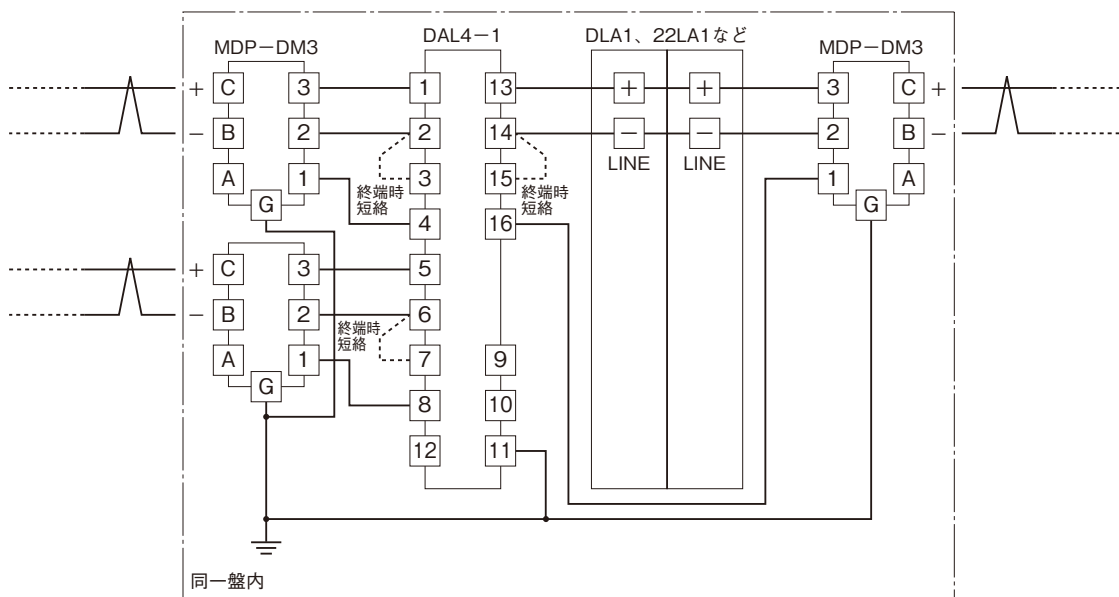
- ①端子接続図に従って結線がされていますか。
- ②供給電源の電圧は正常ですか。  
端子番号⑨-⑩間をテスタの電圧レンジで測定して下さい。
- ③より対線の接続はCPEV-0.9 φ以上で+どうし、および-どうしを接続して下さい。
- ④より対線のポートを終端で使用する場合と同ポートを未使用の場合、終端抵抗端子 (②-③、⑥-⑦、⑭-⑮) をショートして下さい。

## 保証

本器は、厳密な社内検査を経て出荷されておりますが、万一製造上の不備による故障、または輸送中の事故、出荷後3年以内正常な使用状態における故障の際は、ご返送いただければ交換品を発送します。

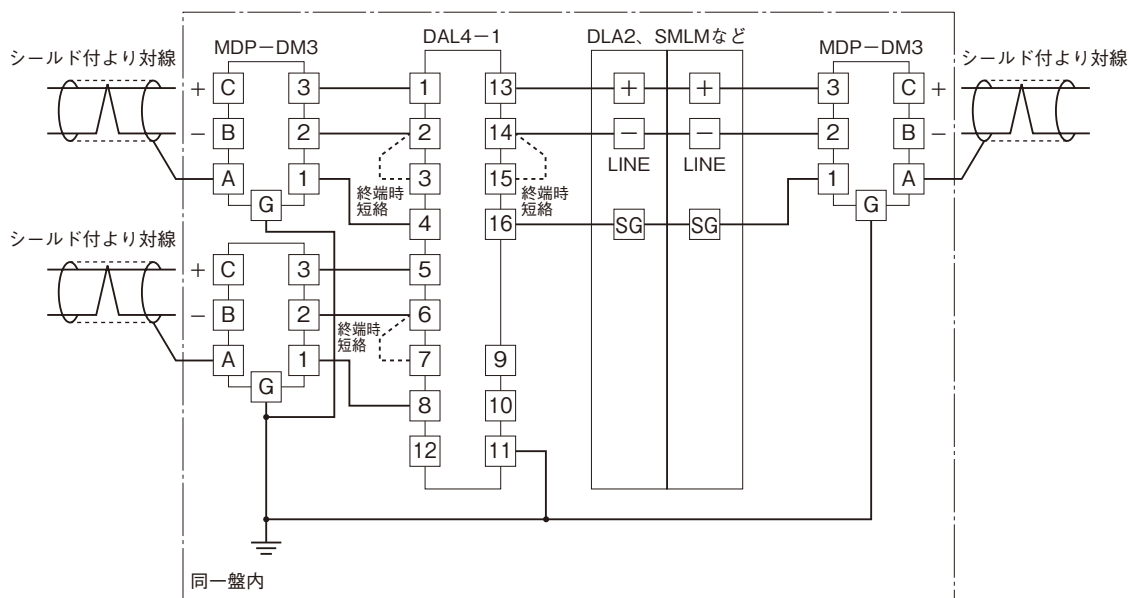
## 雷対策

## ■多重伝送用



- ・DAL4の伝送ライン（より対線）には必ず避雷器（形式：MDP-DM3）を設置して下さい。
- ・MDP-DM3の①端子をDAL4のSG端子へ必ず接続して下さい。
- ・同一盤内でDAL4の伝送ラインにDLA1、22LA1などのユニットが接続される場合は、MDP-DM3とDAL4の間に設置して下さい。
- ・このときもMDP-DM3の①端子をDAL4のSG端子へ接続して下さい。
- ・DAL4、DLA1、22LA1などの電源ラインにも電源用避雷器を設置して下さい。

## ■M-Bus用



- ・DAL4の伝送ライン（より対線）には必ず避雷器（形式：MDP-DM3）を設置して下さい。
- ・MDP-DM3の①端子をDAL4のSG端子へ必ず接続して下さい。
- ・同一盤内でDAL4の伝送ラインにDLA2、SMLMなどのユニットが接続される場合は、MDP-DM3とDAL4の間に設置して下さい。
- ・このときもMDP-DM3の①端子をDAL4のSG端子へ接続して下さい。
- ・DAL4、DLA2、SMLMなどの電源ラインにも電源用避雷器を設置して下さい。